

ペガちゃんフロ7 「カヌー」(潮位が高い場合) [小学5年・理科]

ねらい	当所の活動プログラム「カヌー」と小学校理科第5学年内容「B生命・地球」(3)「流れる水の働きと土地の変化」を関連させたプログラムである。万之瀬川下流域の自然環境を生かして、川の流れる水の早さや量に着目して、それらと土地の変化とを関係付けして、流れる水の働きを実際に調べ、これまで学習してきた内容と結び付けて知識・理解の定着を図ることをねらいとしている。
概要	カヌー研修で上流まで進行し、船上から川岸の様子を観察し、既習事項を確認することができる。
よさ	○ カヌーに乗りながら、川の流れを体験し、既習した内容(岸壁の様子や岸にある石や砂の大きさ)を目で見て確認することができる。 ○ 前後の活動(オリエンテーションやサイクリング等)でサンセットブリッジから見える河口域の様子を確認することで、学習の内容をより深めることができる。

- 校種・学年 小学校 第5学年
- 教科 理科
- 内容 B生命・地球 (3)流れる水の働きと土地の変化
- 展開 (例: 90分)

過程	主な学習活動 ※ () …指導者	時間(分)	指導の手立て
導入	1 上ノ山橋付近まで自然散策をする。(引率者)	20	○ GoogleEarthや地図を活用して現在地を確認する。 ○ 既習事項を振り返り、流れる水のはたらきの大小で川岸の様子が変わることを確認する。
	2 学習のめあてをつかむ。(引率者) 万之瀬川は、災害を防ぐためにどのような工夫がされているだろう。	5	○ 川岸からではなく、カヌーに乗りながら流れる水の働きを確認すること伝え、意欲を高めるようにする。
展開	3 カヌー乗船の事前指導を受ける。(自然の家職員) (1) 乗船前の心得を確認する (2) パドルの使い方を確認する。 (3) 学習の視点を確認する。	55	○ カヌー研修における安全面等について確認する。 ・ ライフジャケットを着用する。 ・ 船頭の指示を聞く。 ・ 指示があるまで白線から先に行かない。
	4 カヌー研修をする。(自然の家職員・引率者)		○ 河の両岸で停泊し、流れる水の速さを確認する。
	5 気付いたことを発表する。(引率者) ・ 川の曲がった箇所では外側で水のはたらきが大きく、内側が小さい。 ・ 内側に比べて外側の流れが速い。 ・ 内側は土や砂が堆積している。	5	○ 流れる水の速さによって、両岸の浸食や堆積の様子がどのように変わるか子供の言葉で発言させるようにする。
終末	6 学習のまとめをする。(引率者) 浸食を防ぐために外側はコンクリートで補強されている。	5	○ 岸に上がり、カヌーの上から見て分かったことを確認する。
	7 活動を振り返る。		○ 自己の学びを振り返り、自己の変容や成長を自覚させ、充実感や満足感を味わわせ、次の活動への意欲を高める。

- 事前に準備するもの
(自然の家): ライフジャケット、パドル、双眼鏡
(学校): 帽子、タオル、学習ノート、水筒